

平成 23 年 8 月 19 日

伊勢市長 鈴木 健 一 様

伊勢市行政改革推進委員会

## 平成 23 年度事業総点検への付帯意見

平成 23 年度事業総点検外部点検を実施したことを踏まえ、本年度の内部点検、平成 24 年度以降の外部点検においては、以下のことに留意されるよう望みます。

### 1. 事業目標について

事業の説明において、事業の数値目標は総合計画の数値目標で示されていました。総合計画の数値目標は時点修正されないため、一部の事業では数値目標を達成しているにもかかわらず、達成された数値が目標であり続ける状態となっています。目標が達成されれば数値目標は新たに設定されるべきです。総合計画の数値目標が時点修正されないのであれば、事業の目標については総合計画の数値ではなく、オリジナルの数値目標を掲げていくことが課題であると考えます。来年度以降の事業説明においては、その点に留意してください。

### 2. 4つの視点について

個別の評価項目（社会的需要、公平性、事業改善、民間委託）については、点検の重要なポイントは押さえられていると考えますが、以下のことに留意してください。

社会的需要については、この事業をやめたときにどのようなデメリットが生じるのかという観点から考察すれば事業の必要性は裏付けられると考えます。また、ニーズ把握に努力してください。

公平性については、市民サービスが市民全体を網羅しているか、地域、世代を網羅しているかを踏まえ点検してください。また、行政運営は公正性の確保、透明性の確保が非常に大切です。申請行為があり、それに対して何らかの処分を行う際には、あらかじめ基準があってしかるべきで、それをできるだけ公にしておくのが望ましいと思います。最終的な意思決定は行政が行う必要があると思いますが、その前提となる部分については、できるだけ基準を公にしていってください。

業務改善については、改善にとって内部評価が一番大切です。一番良く分かっている現場で内部評価をして進めてください。

民間委託については、全面委託をしたときにどのようなデメリットが生じるのかを考え、市が実施しなければならない部分、その理由を明確にしてください。事業によっては総合的な評価をする必要があるため、民間委託が難しいものもあります。そういったものを整理して行くと、全市的な方針も出てくるのではないかと考えます。また、民間でできることは民間に実施していただければ良

いと考えますが、民間事業者が倒産してしまえば事業の継続性が保たれません。その点も考えた上で民間委託を進めて行ってください。民間事業者は利益を出す必要がありますが、利益が出なくても実施しなければならない事業もあり、そのような事業は市で行っていく必要があります。その点も考えながら民間委託を進めて行ってください。

### 3. 客観的な視点での点検について

内部点検については、事業にのめり込んでいくほど自己満足になっていく部分もあります。内部での評価ということで難しい面もあると考えますが、客観的な視点で市民の立場に立って評価をしてください。

### 4. 線での評価について

総体的に見て、事業の将来的な展望が見えません。将来のあるべき姿と現時点でどの段階にあるのかを、もう少し明確にしたほうが良いと考えます。反省点の上に立って次に何をするかということが事業の分析になります。過去において不足していた部分、次の時点での目標、そして将来的方向性が必要です。点（ある時点）で評価するのは現在の出来高の評価にしかならないため、点と点を結んだ線の評価をしていく必要があります。将来的には線での評価ができるような形を考えてください。

以上